Naikakufu Dayori

2009 内閣府だより

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構 一般公開

OPEN HOUSE 2008について

沖縄県恩納村に設立準備が進められている沖縄科学技術大学院大学(仮称)。

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構は、その沖縄科学技術大学院大学構想の推進などを目的とした組織です。

●

昨年、11月9日に、沖縄県工業技術センター(うるま市)において、県民の皆様を対象に施設を一般公開し、機構の活動内容と科学の楽しさ、素晴しさをわかりやすく紹介するOPEN HOUSE 2008を開催しました。当日は、代表研究者による講演会、普段見る機会の少ない研究室を見学するラボツアー、科学実験のデモンストレーションなど盛りだくさんの内容で、来場者数がおよそ630名に至る大盛況のイベントとなりました。

代表研究者が研究内容をわかりやすく講演

- 情報処理生物学ユニット
丸山一郎 博士「細胞表面の1分子を見てみよう!」
- 神経計算ユニット
銅谷賢治 博士「脳をつくることで理解する」
- 発達神経生物学ユニット
ゲイル・トリップ博士「OISTこども研究所設立に向けて」

※OISTとは、沖縄科学技術大学院大学の略称(Okinawa Institute of Science and Technology)

発達神経生物学ユニット:ゲイル・トリップ 博士

研究内容の展示及び科学実験のデモンストレーション

"ふれてみよう科学の世界"

日ごろの研究内容を一般の方々にご紹介するために工夫を凝らした研究内容の展示やデモンストレーションのコーナーを設けました。実際に電子顕微鏡を使って身近にいる昆虫の眼などの観察や、海の生き物やロボットに触れる等の体験をしていただきました。

- マリンゲノミックスユニット
(代表研究者:佐藤矩行 博士)
「海の生き物のゲノムを探る」
- 発生分化シグナル研究ユニット(代表研究者:メリー・アン・プライス 博士)
「果物からDNAを取り出してみよう!」
「緑色蛍光タンパク質(GFP):光る魚、ハエ、虫を見てみよう!」
- G0細胞ユニット(代表研究者:柳田充弘 博士)
「細胞の"増えない"しくみ」
- 神経計算ユニット(代表研究者:銅谷賢治 博士)
「ネズミ型ロボットの"脳"をつくる」(内部英治 博士)
「脳の中のプログラムを解読する」(伊藤真 博士)

顕微鏡を使って海洋生物を観察

ネズミ型ロボットに触れる

バナナのDNAを抽出する実験

ラボツアー

「研究者はどんなところで働いているの?」という疑問におこたえし、普段は見る機会が少ない研究室をご案内しました。

ラボツアー

イベント終了後、参加者の方々からは、「興味のあることばかりで良かった。特に脳についての学習の仕方に興味がわいた」、「科学は夢があって楽しい」、「学習するロボットがあることを初めて知った」、「バナナからのDNA抽出は興味深かった」、「日頃立ち入ることが出来ない研究室で最新機器に触れることができた」などの多くの感想をいただきました。